

寒冷地形談話会通信

92年第1号 1992.1.7発行

事務局／〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1
東京都立大・理・地理院生室 0426-77-1111(内3836)

1. 91年12月例会報告

1991年12月14日、東京大学において、上高地自然史研究会と共催で12月例会が開催され、以下の発表が行われました。発表後は恒例のスライド大会と忘年会で今年度の活動を締めくくりました。参加者20名。

□関 秀明（古今書院）：「蝶ヶ岳西側に分布する二つの平滑斜面」

蝶ヶ岳西側の平滑斜面と梓川流域の地形発達史についての報告を行なった。特に平滑斜面は、従来報告されてきたような典型的なものほかに、表層の堆積物に周氷河的な特徴をもたない平滑斜面も存在している。調査地域における、この平滑斜面は標高2200～2550m付近に分布し、角礫混じりの粘土層や角礫混じりの褐色土で構成されている。この堆積物の起源について土石流や火山灰の混入、化学的な風化作用などが関与している可能性が指摘され、平滑斜面そのものの認定についての議論もなされた。

□小口 高（東京大学）：「日本の『気候地形帯』に関する覚書」

日本における氷河・周氷河地形研究の流れを整理し、それをふまえて、気候地形研究における次のような問題を提示した。1) 現在はこれまで蓄積されてきた高山と低所でのそれぞれの研究成果を総体的に議論する時期にきていること、2) 周氷河地形と気温・降水量などの環境との関係を確認すべきであること、3) 斜面の形成時期や安定性の広域的な議論は統計的検討を通じてなされるべきであること、4) 河谷への岩屑供給増加時期について再検討が必要であること。

2. 1月例会のお知らせ

1月例会を次の要項で開催します。ふるってご参集ください。

日時：1月25日（土）、15：00～

会場：明治大学駿河台校舎（会場は当日、大学院棟玄関に張り出します）

発表：小泉武栄（東京学芸大）「カナダ、北極圏エルズミア地域の自然地理」

三浦英樹（都立大・院）「北海道北部にみられる化石楔状構造の記載と解釈について」

3. そのほか

①事務局の不幸により、11月例会の報告を今号に掲載できなかったことをお詫び申し上げます。次号に掲載いたします。

②1992年の寒冷地形談話会特製カレンダーは、残部少数ですので、お求めになる方は事務局までお早めに連絡下さい。（1部1000円）